

今回は 岐阜大学・岐阜女子短期大学 オープンカレッジ の報告です。

◇ 関市内で「街なかオープンカレッジ2021 in 関」が開催されました！

企画： 岐阜大学地域科学部 岐阜女子短期大学 関市

日程： 令和3年8月7日

参加者： 希望する高校生（関高生を含む）

場所： 関市役所 善光寺 本町BASE せきてらす

◇ イベントの概要 関市・岐阜大学地域科学部FB・HPより

8月7日（土）、「高校生のための街なかオープンカレッジ」が開催されました。このイベントは、岐阜大学地域科学部と岐阜女子短期大学が主催となり、オープンキャンパスとフィールドワークを掛け合わせて実施されており、関市では初めての開催となりました。

午前中は、大学側および関市でまちづくり活動をしている方々の講義とクロストークから、「地域との関わり方」や「地域を見る視点」を学びました。午後からは実際に本町BASE、せきてらす、関善光寺を訪れました。

最後にワークショップを行い、それぞれの気付きやアイデアを共有しました。参加者からは、「いつも過ごしている関市の違う面が見れたし、まちづくりにより興味を持った。」「短時間ではあったけどいろいろな話を聞いて、訪問できたので、自分の視野を広げることができた。」という声が聞けました。

（関市役所公式FB せきらら book より転載）

8月7日（土）、「まち」を素材に「研究」する、「まち」を素材にまちづくりを考えることを主題として、関市で「高校生のための街なかオープンカレッジ2021 in 関」を開催し、県内および県外の3校から13名のご参加がありました。

午前の部では、関市役所で、関善光寺の佐藤舜海さん、関市市民活動センター/NPO 法人ふうめらんの林加奈さん、岐阜市立女子短期大学の白井直之先生および本学部の富樫幸一教授により、それぞれ「お寺を拠点としたまちづくり」、「市民協働のまちづくり」、「関のまちのデザイン」、「関と岐阜のまちづくり」のテーマで、まちづくり・大学と地域・学生の関わりについてクロストークが行われました。

午後の部では、実際に関市本町周辺のまちあるきに繰り出し、本町BASE、関善光寺、せきてらすな





関善光寺（写真左） せきてらす（写真右）

を見学し、まちづくりについて直接話を聞くなどして、高校生たちは普段の生活では気づかない「まち」を再発見することができました。

その後、関市役所でグループに分かれ、岐阜市立女子短期大学の学生も各グループに加わりワークショップを行い、まちあるきで気がついたこと、午前中のトークで考えたこと、これからの学び方・将来に向けてなどについて意見を出し合い、議論を交わし、考えを深めました。最後には、本学部の甲斐智大助教による「高校から大学への繋がり」について高大連携についての講義があり、参加した高校生は興味深く聞いていました。

参加者からは非常に好意的な感想をいただきました。いくつか紹介しますと、「実際に町を歩いて意見を交流して、大学の学びを楽しいと思いました」、「このイベントを機にたくさんの経験ができました。短時間ではあったけど、グループワークで同世代の考えを知れて、考える時間があったので少しでも視野を広げることができたと思う」、「関市の活動とか詳しいことまで知れて、町づくり活動をやっていきたいと思えました。また、普段知らない出会わない人と出会えてよかったです」等です。

（岐阜大学地域科学部公式ホームページより転載）

<http://www.rs.gifu-u.ac.jp/newstoppers/2021/08/18/2021-in.html>

## <追記>

関高校からは、例年、岐阜大学地域科学部に複数の生徒が進学します。今回のイベントにも、地域科学部を進学先に考える生徒を中心に10名が参加しました。コロナ禍によって、各大学で実施されるオープンキャンパスが中止もしくはオンライン開催になる中、今回のようなイベントは、地域科学部をめざす生徒にとっては、絶好の機会であったと思います。お世話になった皆様、ありがとうございました。